

関中学校だより



関中学校HPにアクセス

※ 第27号 ※

令和7年1月10日発行

亀山市立関中学校

文責：堀内

人生を豊かにする力 非認知能力を伸ばそう

3学期が始まりました。「お年玉をもらったり、お餅を食べたりしてお正月は楽しかった」と子どもたちは笑顔で話をしてくれました。私は、始業式で「非認知能力を伸ばそう」という話をしました。今、教育で非認知能力がクローズアップされています。それは、これからの時代を生きるために、確実に必要な力だからです。認知能力とは学力テストで測れる力であり、非認知能力とは学力テストでは測定できない、人の心や社会性に関係する力です。具体的には、「困難に負けない心」「最後まであきらめずにやり抜く力」「コミュニケーション力」「思いやり」「協調性」などを表します。非認知能力は、子ども自身が獲得して伸ばしていく能力ですが、周りの大人はその手助けをする姿勢で関わっていきたいと思います。子どもたちが目標や計画を立てて、それに向かって努力を続けられるよう、本年もご支援・ご協力よろしくお願いします。



始業式で校歌を歌っている様子



宿題提出の様子

どうすれば非認知能力は伸ばせるの？

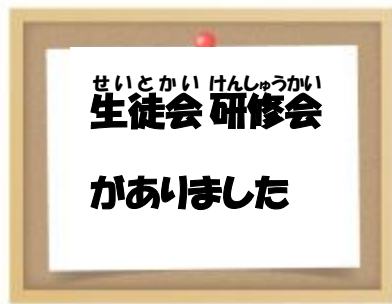
- ①自分で考えて行動する。
- ②自分や人を大切にする。
- ③すぐにあきらめずに挑戦を続け、「できた」を積み重ねる。
- ④人と関わりながら、学級活動や班活動、部活動などにしっかり取り組む。

毎日の生活で意識し、行動することで伸ばせます。

子どもたちの非認知能力を伸ばすためにできる大人の関わり方

- ①子どもが興味を持ったことは積極的に応援する。
- ②子ども自身が決めるという経験をさせる。
- ③失敗しても前向きな声掛けでサポートする。
- ④結果だけを褒めるのではなく、頑張っている経過を褒める。

非認知能力が高いと学力も向上しやすいという研究結果があります。



12月24日(火)、鈴鹿市と亀山市の中学校の生徒会役員らが集い、各校の生徒会の取り組みやいじめ防止について意見交換をする生徒会研修会がスズカト(三重県立鈴鹿青少年センター)で開かれました。関中学校の生徒会メンバーもこの研修会に参加して、積極的に意見交換をしました。各校の取り組みについては、あいさつ運動や目安箱、校則や体育祭の種目などについて議論されていました。また、いじめ防止の取り組みについては、鈴鹿市中学生ヒューマンライツサークルの劇、及びメッセージを視聴した後、グループ別にいじめ防止に向けて自分たちができることについて話し合いをしました。今回の話し合いでは「いじめをしている人」「いじめられている人」ではなく、「いじめを見ていた人」「傍観者」に焦点を当てて考え

ました。話し合いを通して、「なぜ、人はいじめをするのか」「いじりといじめは同じ」「他人事ではなく自分のこととして考えることが大切である」など、様々な疑問や意見が出ました。今後、生徒会の皆さんはこの研修会を通して感じたこと、得たことなどを関中学校の生徒会活動に活かしてほしいと思います。



保護者の皆様へ

学校では、いじめや人権について考えたり、全校生徒でいじめ防止の標語を作ったり、子どもたちが安心した生活を送れるように、いじめ防止の取り組みをしています。ご家庭でも、いじめに対して日常的にご指導いただきますようお願いいたします。また、お子さまの変化など、何か気づかれたことがあればお気軽にご連絡ください。



- ①人を絶対いじめてはならない
- ②いじている子を見かけたら必ず止める
- ③それができなければ親や先生に伝える